

2009 年第 1 回 私立大学図書館協議会 阪神地区研究会  
アンケート回答一覧

【設問】各館のガイダンスでの取り組みや、読書推進のための工夫、失敗談などがあればあげてください。

【回答】(敬称略)

「図書館に送られてくる、他大学の「紀要」に目を通し、卒論指導ゼミの利用者時に紹介。中には『ホームレス中学生』1冊で論文を書かれている先生がおられ、その内容を具体的に説明すると、学生の喰いつきが予想外に大きかった。他大学の「紀要」には(学部が違うので)意外な論文が発見できる。

(A 大学)

「としょかんぼう」に学生が学生に薦める本をコメントつきで掲載している。図書館の蔵書ではなく、学生の好きな本を書いてもらうので、マンガを取り上げる学生もいるが、大部分は「なるほど」と思う本を薦めてくれる。

入口近くで、時事関係の図書を集め展示している。たまたま教員の出した課題と合致して展示の資料がなくなってしまった。

本学図書館は建物が複雑でどこへ行ったら自分の探している本があるかわからない学生が多かった。そこで館員でミニチュアの本や、絵巻をつくり、展示用の書架を利用して、館内地図(立体)を作った。階段やパソコンなど構造的に忠実に再現して、好評を得ている。

(B 大学)

本日はありがとうございました。2009 年度に初めて 1 年次全員に図書館ガイダンスを実施しました。(今までからガイドツアーは実施)コンピューター室での OPAC 説明と書庫内ツアーを行いました(楽譜と音源の多くは書庫内にありますのでびっくりしていました)。初年時教育のたった 1 コマですが、学生達に図書館の存在を知らせることができたと思います。同時に授業の中で図書館を取り上げるにより教員達にも、図書館あるいは図書館と学生の関係について認識してもらえるキッカケになったかも知れません。

(C 大学)

ゼミ(4年生)の図書館ガイダンスで「説明の途中でも何かあれば聞いてください」質問形式にしたら、どんどん質問が出て充実したガイダンスになった。

ただし、積極的な学生がいないゼミ(3年生)だとあまりうまくいかない。というか、普通のガイダンスになってしまうが。

雑誌架、参考書架を自由に見させる(手にとって)も最後に行う。

(D 大学)

トピック図書コーナーを設けて話題になっているテーマで本を集める。

(テーマ) ex. オリンピック 大阪本 裁判員制度 健康本(フィットネス、美容)

図書館のアルバイト学生によるおすすめ本コーナー POP付きで提示する。

ビジネスおもしろ文庫コーナー

ビジネス系の読みやすい本ばかり集めた書架コーナーを作っている。

(E 大学)

学生ボランティアができたばかりです。まだ具体的は活動には至っていませんが、図書館への要望が聞けて発見があります。図書やDVDの紹介などをしてくれたらと期待しますが、何をやるかは学生の自主性にまかせて現在話し合い中です。本日の講演を聞いて学生による提示などを実現させたいと思いました。

(F 大学)

特に図書館から呼びかけはしてないが、1年次ゼミの先生のご要望で、「図書館ツアー」という名で館内の案内、書架の配置やOPACの使い方などを教えています。(今でもOPACを実際に使ってもらい、図書が見つければ喜んでくれる学生が多いです。)

(G 大学)

4月から始めた取り組みは・・・

1.リサイクルブックフェア

準備にかけた労力に比して好評でした。

2.学有有志による「しおり&ブックカバー展」を館内で開催。

学内の違う場所で展示していた彼らを誘致しました。

3.2年次ゼミで「学内職員インタビュー」が行われた際、なるべく多くのグループを引き受け、最後は「利用者教育」に変身させる。→時間がかかり、苦勞します。小さいグループだし、本音トークができるので、図書館への垣根が一変に低くなったのではないかと思います。

(H 大学)

三週間ごとに図書館員がコンビを組みあるテーマを毎回 もうけ「読書力コーナー」として入口付近に設置。(スポーツ・ノンフィクション・一人暮らし応援料理本・金沢にまつわる本・タレント作家の本他)学生は入館時に手にとって見ている。

先生の推薦図書コーナーを設置。(ジャンルは問わず)これも人気がある。

(I 大学)

ある日のカウンターでのやりとり

学生「村上春樹さんの本はありますか」

職員「ありますよ。そんな作品を探していますか」

学生「作品は知らないんですが、とにかく今一番アツイ人だと聞いたので・・・」

職員「・・・(確かに1Q84は発売されているが、アツイ人なのか・・・)」

ということがあり、カウンター側に春樹コーナーとして10冊くらい置いてみました。するとやはり関心が高かったらしく、立ち寄る学生が増えました。流行を大切にすることを感じた一件でした。

(J 大学)

HPに、学生、教員、図書館員のおすすめ本をのせてみた。

次回に なかなかつながらず、休止している。

今年は、教育学部の授業の関連で学生選書を進めている。

(K 大学)

全学的な新生対象のオリエンテーションである「キャンパスライフABC!」に大学図書館も「レポート活用法教えます」というプログラムで参加し、1回約30分内容で大学図書館紹介、OPACおよびよく利用されるデータベース等の使い方を紹介した。

3日間の内容で実施し、各回とも100名程の参加者があった。次年度は「レポートの書き方」に関する図書コーナーを展示することと合わせたものにプログラムのリニューアルをはかりたいと考えている。

(L 大学)

深井様

楽しく面白いお話ありがとうございました。関西学院大学では「先生のおすすめの本」という全学部教員推薦図書をこの7月より始めました。

本はカバー付き、教員からのPOP付き、顔写真はまだありませんが、のちのち載せたいと考えています。学生は本と触れ合うことを嫌っているのではなく、「本を読むこと＝楽しいこと」という機会に恵まれていないと感じます。ケータイ、PCなどの媒体を面白く活用し、本と学生を、図書館と学生を、また図書館職員と学生を近づけることを考えていきたいと思えます。

(M 大学)

図書館長からの提案により、大学生に図書館の内部を知ってもらい、図書館に興味を持たせることができないかを検討し、策定した。

1.「図書館のなかみ」パンフ、選書、発注、受入、分類、目録などのハウスキーピング業務を紹介し、分類と目録のエキスパート職員の実名、写真、インタビュー記事を掲載して、カラフルな面白いパンフレットを作成し、配布した。

2.図書館報の最終ページを使って、図書館員への授業の伝わり(担当)や対外的な委員としての活動を掲載し、理解を求めた。

(N 大学)

書架スペース確保の為、やむなく近年は本のカバーは取り外して処分しています。カバーには意匠も凝らされているのもったいなく、残念です。せめて処分前に、それを利用して利用者に新着図書をアピールしようと、図書館入口に展示ケースを置き、そこにその月の新着図書の中からおもしろそうな本のカバー(視覚的にきれいなもの)を展示しています。学生は、入館時はまずそこに足を止め、興味を持って見ているようです。本自体は新着コーナーに別置しており、そのままそこへ足を運び借りていく学生も結構いるようです。図書館外の、学生掲示板にも同様にカバーの展示を行っています。こちらも展示に工夫を凝らし、学生に好評なようです。「ください」という学生には展示後譲ります。

(O 大学)

ホームページで新着図書の紹介をしていますが、あまり反応はありません。今後は携帯サイトを活用していきたいと考えています。

(P 大学)

学生用の軽めの雑誌を(ファッション誌、情報誌)リクエストにこたえて古くなったバックナンバーに限り“ご自由にお持ち帰りください”と出入口に置くようにしたところロボロボのなったものでも、すべて持って帰ったのに驚いた!

(Q 大学)

2009年6月から推薦本コーナーを改めて特集本コーナーを始め、同時に学生から特集してほしいテーマを募集しています。結果、今月から始まった第2回のテーマは、学生からのリクエスト「日本の妖怪」で集めた資料を、入り口付近の書架へ別置展示できました。

多くはありませんが、他にもリクエストは届いているので、これからの展開次第で、学生の興味を引くコーナーになってほしいと思っています。

(R 大学)

どの大学でも実施しているところが多いですが、「読書ラリー」を実施。(年間100冊を目標。コメントカードを提出してもらう)一年生が約5割登録し、本にふれる機会となった。(現在115名がエントリー)ただ、(対象の本が)図書館の中の本と限っていないので、来館者数にはあまり影響がなかったのが残念。次の企画を現在考えています。

(S 大学)

読書感想文コンクールを実施。  
三賞ほど(最優秀賞、優秀など)を決定し、賞品を授与  
ゼミ単位でのOPACガイダンス。

初年度次教育への対応として高校からの橋渡しのテキスト(予備校などの大学受験用テキストなど含む)をかなり大量に受け入れてみたら、新生の貸出しだけでなく、2、3年生にも好評で少し複雑でした。とくに教員はその結果にがっかりしていました。

ブックハンティングの開催をしました。  
やはり自分で選んだ図書がどうなったのか気になるようで、何度か図書館に足を運んでくれるようにもなりましたし、ブックハンティングの間に普段は話せないような話をしたためか、急激に仲良くなる(こうすると、カウンター越しに話しかけられてしまい困ってしまいますが・・・)ケースが多いです。

選書ツアー  
希望学生と一緒に本屋さんに行って好きな本を買ってもらう。

この4月より図書館に勤務しています。大学での勤務歴は約40年間ですが、学内、教務課、入試課、庶務課、短大(夜間)といった業務(事務)を経験してきましたが、図書館は全くはじめての経験です。

学生の図書検索方法の傾向についてまずPCでgoogle検索により、ジャンル別で図書を絞り込み、その後OPACでその本があるかどうかの検索をしている。検索エンジンとしてはgoogleにはかなわない。テキストだけでなく関連する画像や動画も検索できる。

学生への推奨本コーナーを設置した。「チョイスがいいですね。」と学生にほめられた。

開学 3 年目の大学なので、とりあえず他大学ではやっている試み等積極的に色々な企画順次実施している。

○読書マラソン

エントリーはあるが、途中であきらめてしまう人が続出。完走する人はこの先いるのか不安である。

○源氏物語を読む会

地域に開かれた図書館を目指して、住民に来てもらう予定であるが、申込みがあるか不安である。

○選書ツアー

ジュンク堂で実施したいが取引業者として大学側が認めてくれないので難航中。

読書マラソンやクイズなどを企画して、熱心な参加者も多いのですが、図書館の自由になる予算がないので、賞品が非常に『粗品』です。

何人もの学生に「いりません!!」と言われました。ちなみに携帯ストラップと蛍光ペンです。

〈選書ツアーの実施〉

学科別で図書館で予算を取り、取引書店で店頭抜き取りをしてもらう。(教員 2～3 名と学生 5 名程度) 自分たちが選んできた本なので図書館に配架されるのを楽しみに待っている。

何名かの学生には、自分達でPOPも作成してもらいコーナーを設けて配架している。他の学科の学生も興味をもって見ている。

“今月の図書”

テーマに合わせて毎月図書、雑誌、絵本、視聴覚資料を紹介している。

入口に置いているので貸出が多くなった。

展示コーナーに映画・ドラマの原作本コーナーを作成。利用者が多いです。

書架で、ブックスタンドを使って本の表紙を見せて展示。

新着図書にオビを付けたまま展示。

現在図書推進計画を進めている過程で授業と密接に関連した取組みを考えている中で、入門ゼミ等で1冊の本を読み、ブックレビューを書いてもらい、それを図書館サイトに掲載し、他の学生へ紹介するという取り組みを始めています。

まだ特定のゼミとの協力のもとで行っているのですが、学部と図書館との関連で今後は進めていきたいと考えています。

OPACの講習会、データベース講習会を5月6月に実施しました。

1回目は、掲示の案内が少なかったのか参加者が少なく、次の会より誘導看板等を配置し開催していることをわかりやすく掲示したりしました。

毎月の予算のうち、かならず、今話題の小説、その他の本を購入することになっている。(月2〜3万程度)。→貸出が増え、学生の利用も増加している。

文庫・新書(学術的な少しかたい内容のもの)の利用が少なかったので、面置きを多くし、レイアウト的にも美しく変えたところ、すぐに効果が出て、そのコーナーは以前の2倍以上の貸出になった。

新書コーナー、テーマ展示(貸出可能、月毎に変えている)の図書に、なるべく、レビューを付けている。捨てる帯を利用し、本を紹介したりもしている。

ゼミを対象にした図書館ガイダンスを始めました。見学+検索実習タイプの型です。

学内の本にしか目が向いていなかった学生の目が論文や学外の資料にも目が向くようにカウンターで感じられるようになりました。

1年次生に対し基礎ゼミ単位で、ライブラリーツアーを実施している程度で、特別ユニークなことは行っていません。

今日のお話しは大変参考になりました。今後図書館で検討し実行できればと思います。

後期のオリエンテーション時に図書館だよりを発行しています。その中に、先生方の著作本、推選図書の紹介をしています。

本を読むことはやはり積み重ねが大切ということがよくわかりました。もっときっかけ作りをしていきたいと思いました。

あと、年1回ですが、図書館学生アルバイトの学生にリクエストの本を出してもらっています。

失敗談ですが、読書推進の一環で「読書感想文コンクール」を2年前まで実施していたが、以前と学部が変わって、現在は文学部がないことなどから資格や授業に関する本以外の貸し出しも減り、小説を読む学生も減った為、ほとんど感想文の応募もなく無理やり学生アルバイトに書かせるなどして、ようやく6人の感想文を集めた。それで今はしておりません。

先生方の論文や書物を集めて開架でコーナーを設置した所、とても好評でした。

図書館の広報紙に各先生方のおすすめ資料を掲載して、図書館入口付近にその広報紙の拡大版を掲示し、その前にそれらの資料を展示し短期間の貸出をした。一部貸出不可な雑誌やビデオもあった。

図書館内に語学学習室を設けて、多読(英語)を推進している。50冊チャレンジを行っている。

登録者には、メルマガを月1〜2回発信している。

図書館だより(年 2 回発行)の一部を切り取って携帯用の開館カレンダーとして使えるよう印刷している。カレンダーの裏側は本学に関するクイズを載せ、ヒントは図書館内で見つけられるようなものになっている。

定期的にテーマを持った別置コーナーを設置。オリンピックの時期ならオリンピック関連書籍など。現在は健康本コーナー。入口付近などで目を留め、手に取る人が多い。貸出も可。オープンキャンパスの時の見学者の中にも見ている人がいる。

1 年次の導入ガイダンスで、講義形式で説明するだけでなく、実際に資料をさわられる様に資料探しのクイズを行った。

出題は全て図書館が行ったが、学生に本を選ばせる機会を作っても良かったと今日の話聞いて思いました。

新 1 年生の入学前の全額オリエンテーションの取り組み方について。

オリエンテーション開始時期から従来まで、“図書館オリエンティング”というタイトルで参加を呼び掛けていた(催し物を行った)が参加者は 70 名程度でした。これは駄目だということで、“図書館活用術教えます”と題し、レポート作成など大学 4 年間で役立つ図書館活用ポイントを 30 分の講義形式で行いますとアナウンスしたところ、300 名を超える学生が集まり大盛況だった。それから今まで同じスタイルで行っているが、参加者が減少している傾向があるので今後更なる改善が必要だ。

○図書館利用促進の為に。

読書感想文コンクールを開催した。学生数に対して応募数は多くなかった。

○本が好きでない人を呼び込む為

AV 資料としてディズニー等 3 点購入し PR を強化した。うち 1 点は女子学生に人気があり利用が多かったが、あと 2 点はあまり人気がなく利用も 1 度だった。

学生に、読んだ本やおすすめの本の感想や紹介を書いて入れてもらう「ブックポスト」をつくり、感想にコメントを付け掲示していました。ですが、だんだん感想を書いてくれる学生が少なくなり、ブックポストも撤去してしまいました。

京都の大学ですので、「祇園祭展」を毎年の恒例展示として催しております。地方からの学生も多いので興味を持ってくれています。期間中、父母の会総会・オープンキャンパスがありますので、ご父兄・高校生の方にも楽しんで頂いております。資料の展示のみならず、巡行の様子 DVD を流したり、ちょうちんを吊るしたり、工夫を凝らすよう努力しております。

図書館の中にあった喫煙室を 2008 年から、休憩室にしました。小声で話すことができますが思っていたよりも利用が少なく昼寝室のようになっています。

図書館の入口に軽食可のゾーンを作りました。(入館ゲートの前)臭いが広まるようになったので、食べるものを細かく注意する必要ができました。

学生の読書推進の為の取組みの一つとして、前期・後期にそれぞれ時事や世間的に関心の高いテーマを設定し、そのテーマに沿った本を展示する、という「書籍テーマ展示」というを行っている。やはり、一般の書架に並べているだけよりも学生の目につきやすい特設コーナーに展示することで利用率も上がる。そして、当大学図書館では、本の展示に留まらず、より広い視野からの学びの機会を提供したいと思い、「書籍テーマ展示関連企画」を行うことを試みた。設置するテーマにもよるが、第2回目に行った「医食同源セミナー」は、企画側の予想をはるかに上回る形での成功をおさめた。このセミナーは、学生・教員・一般市民を参加の対象として行い、一般セミナーのように、ただ話を聞くだけでなく、実際に体験できる時間も設け、とても大きな反響があった。(途中でですが、時間なので・・・)

本年度は教員と協力し、人文学部の1回生全員に初年次演習情報館ガイダンスを実施しました。

(内容)

座学:OPAC、NDCについて

ツアー:館内別置、案内、利用マナー、貸出返却

特にツアーに重点を置き、30~40分かけて4フロアをまわり、書庫内 etc 普段入れないところも案内し好評でした。また、わずかですがところどころで自由に見てもらう時間も設けてみました。ただ、30~40分歩くのは学生さんには少し長かったようで(階段の上り下りもあり)疲れたという意見もありました。

当館では「レビューコンテスト」「POPコンテスト」をそれぞれ年1回開催しております。年々参加学生が増えており、レビューやPOPの賞の結果発表とともに展示している資料(図書や映像資料)はやはりよく利用されています。

当館は入館してすぐのフロア(2F)がコミュニティスペースになっており、学生たちがおしゃべりやミーティングをする姿がよく見かけられます。

○「読もう!100冊!」を行っている

25冊・50冊・75冊・100冊とポイントカードを作り、その冊数の達成に応じて特典と賞状・ノベルティを渡しています。エントリー制で、ペンネーム形式で感想文を出してもらっています。

今年の1年生が25冊を7月中ばで達成し、その影響で他の学生も刺激を受けて読者数が伸びている。

○「読書会」も実施

集まってもらって、あるテーマを決めて5・6人でフリートークを実施。こちらもそれぞれの学生が刺激を受けています。

学生の読書促進に向けた本学の取組み。

「教員推薦図書コーナー」の設置

入口付近の1等地に、先生から学生に推薦する図書(5~10冊)コーナーを設置しています。1~2か月ごとにリレー方式で展開し、先生の写真と各図書に対するコメントもコーナーに掲載しています。

学生からの評判もよく、推薦図書の多くが常に貸出中となっています。

学生による図書館サークルが以前あったのですが(学生選書をしたり企画展示をしたり)やる気のある学生が卒業してしまうと後輩に意志が受け継がれなくなり、自ら動こうとする学生がいなくなり・・・結局解散してしまいました。

(現在は学生選書ツアーという形でその都度参加者を募集しています。)

学生の意識、というかやる気のようなものが年々、低下しているように思います。手取り足取りでしかこういった活動が続けるのは難しいのでしょうか・・・。

図書館ガイダンスで図書の利用などに関する簡単なクイズを実施しました。

例1)

質問 図書館の本はどんな順に並んでいますか

答・・・1, 入荷順 2, テーマ順・・・

クイズの最後に、学生に人気の作家を質問しましたが、正解率が低く、逆に学生に「えー」というブーイングでうけました。

答えは、劇団ひとり、乙一、東野圭吾のどれでしょう。。。

一年生ガイダンスに今年久しぶりに演習問題を出しました。一週間後の提出という形にしました。

OPACをひくことに慣れてもらい、また検索結果から書架にたどりつけることを目指しました。準備期間が短かったため、問題の不備、想定外のことなどいろいろありましたが、正解率も結構高く、今年の一年生の今後の図書館利用に大いに期待をしています。

・映画やドラマの原作本及び学生による選書を入口近くに掲示した。

原作本の提示により、東野圭吾や伊坂幸太郎など学生に人気のある作家の小説が図書館にあるということが広まり、小説類の貸出冊数向上につながったように思う。

・また選書の一部を学生にも行ってもらっているが、スタッフ側の選ぶ資料とは違った分野のものが多く(NDCでいえば159など)学生により近い目線の資料のため、貸出数の多い人気コーナーとなっており、入館者の増加につながっているように思う。

「読書感想文大会」

図書カード(一万円)を賞品とするも、なかなか作品が集まらなかった。

期間の延長等で対応。

(図書カードは人気がないのか?!)

図書館入口に期間テーマ展示(貸出可)をするようになり、学生が立ち止まって興味を示すようになった。

教員推薦図書や、新刊図書も“帯”と一緒に展示しておくにより興味を引いているようである。

図書館の入り口付近で、トピック的?なものを取り上げ展示している。

例) アメリカで建国史上初の黒人大統領が誕生したとき、オバマ関連の図書や黒人に関する図書を展示した。

現在は村上春樹に関する図書を展示している。

書店にお願いして本を持ってきてもらい図書館内で「学生選書」を実施した。学生からは冊数が少なかったとの不満があった。

以上